

5. 世界保健機関西太平洋事務局での Internship で感じた国際保健行政～顧みられない熱帯病と公衆衛生行政の啓発・普及のために～

¹⁾ 医学部4年, ²⁾ 世界保健機関西太平洋事務局
鈴木健生¹⁾, 矢島 綾²⁾, Rabindra Abeyasinghe²⁾

目的

演者(鈴木)は2019年2月18日から4月5日の約7週間に渡り、フィリピン共和国マニラ市にある世界保健機関西太平洋事務局(WHO/WPRO)にてインターンシップを行なった。本報告は、インターンシップの概要と、演者らが取り組んだ「顧みられない熱帯病」の啓発並びに国際機関・公共政策分野を目指す医学生のキャリアデベロップメントに関する提言を目的とする。

インターンシップの概要

本学では医学部の第3, 第4学年の学生を対象として、フィリピン共和国において同国の地域医療及び日本住血吸虫症に関する海外研修を行なっている。国際保健行政官を志す演者は3年次に当研修に参加しWHO/WPROの概要を体験する機会を得た。ご指導を頂いた共同演者のご好意により4年次にインターンシップをさせて頂くこととなった。本インターンシップでは、顧みられない熱帯病(NTDs: Neglected Tropical Diseases)を担当する部署に配属され、デスクワーク、国際会議の運営作業、インターン生とボランティアを対象とした教育研修への参加等を通し、様々な実務経験を積んだ。

顧みられない熱帯病について

NTDsとは、熱帯地方の発展途上国、特に僻地の貧困地区で問題になっている寄生虫、細菌、ウイルス等による感染症等である。長期間有病地域に定住することで感染する為、先進国を含む非流行地域では注目され難く、名称のごとく顧みられることが少ない。致命的な疾患は少ないものの、後遺障害を生じる疾患も多く喫緊の課題となっている。その為、世界保健機関はNTDsを、世界規模で取り組むべき健康課題としている。現在、以下の20の疾患がWHOによって認定され、根絶に向けた取り組みがなされており、インターンシップにおいても根絶に向けた業務の支援を行なった。

報告

2012年にWHOと関係各機関によって採択されたAccelerating Work to Overcome the Global Impact of Neglected Tropical Diseases: A Roadmap for Implementationに基づき西太平洋事務局もNTDs根絶に向けた枠組みを策定しており、分野を超えた協力体制を整備している。インターンシップの期間中、マニラにて疥癬撲滅に向けたガイドラインを作成するためのInformal consultationが行われ、演者も同席した。本会議においても、医師のみならず疫学者・製薬分野関係者・各種NGOなどが集い、多角的な視野から疥癬撲滅に向けた取り組みを行なっていることが垣間見ることができた。医療の本質は、ただ患者を治すことだけではない。生態系・文化・ライフスタイルを俯瞰し多角的にアプローチすることが重要である。本インターンシップでは、WHOにおける分野を超えた協力体制のあり方に触れ、より多角的な視点を得ることが出来た。

結語

「医療と保健指導を司ることによって、公衆衛生の向上と増進に寄与し、国民の健康的な生活を確保する。」と医師法に謳われるように、医療知識を持つ専門職として公衆衛生の向上に貢献することは医師の重要な責務である。医師の活躍の場は臨床に留まらず、WHOをはじめとする国連機関、厚生労働省・保健所等の公共政策に従事する医師の存在は年々必要性が増している。

一方、医師養成課程は、その多くを膨大な知識の習得が不可欠な臨床医学に費やされており、社会医学・国際保健医療に従事する者を養成するための学習環境は十分とは言えない。本インターンシップを通し、演者は保健医療行政職の必要性を痛感した。本邦の医学教育における今後の本領域教育の環境整備に期待したい。

6. 実習をとおして学生が捉えた産業保健師の役割と機能

看護学部 地域看護学

塩澤百合子, 板垣昭代, 野尻由香, 会沢紀子

1. 目的

産業保健の実習で学生が捉えた産業保健師の役割と機能についての学びを明らかにする。

2. 方法

1) 分析対象とデータ収集

2018年度に公衆衛生看護学実習を履修した4年次全学生107名の中で、研究協力の同意が得られた105名の産業保健実習のレポートを分析対象とした。レポートから「産業保健師の役割と機能」についての記載をデータとして抽出した。

2) 分析方法

抽出したデータを樋口ら(2018)が開発したテキストマイニングソフトであるKH Coderを利用し、単語頻度解析、クラスター分析、共起ネットワーク分析を行った。

3) 倫理的配慮

獨協医科大学看護研究倫理委員会の承認を得て実施した。

3. 結果

学生102名のレポートから550文をデータとして抽出した。使用された総頻出語数は6,775語で、出現回数の多い単語は、健康、行う、従業等であり、単語同士は、中立、立場が強い繋がりで見られた。語彙同士の関連は、産業保健師の中立的な立場で関わる態度、対象者を尊重し信頼関係を構築する姿勢が抽出された。

4. 考察

学生は、企業に属する保健師が、企業と労働者の間で両者を尊重しながら、中立的な立場で従業員と信頼関係を構築している姿勢や役割について学んでいた。この部分は教科書や授業で強調して教授している項目ではないが、実際に事業所で働く看護職の講話から心構えを読み取り姿勢を学び、産業保健師が現場で大切にしている機能や役割を捉えていたものといえる。また、頻出単語を元に客観的に構造化されたものを解釈すると、労働者の健康増進や健康管理に関わるだけでなく、予防的視点を持って工場内の作業環境を考え、従業員が安全に働ける職場環境づくりを関係職と連携する産業保健の特徴的な機能と役割を捉えていたと考える。

5. 結論

学生は、産業保健実習により保健師の中立的な役割と、予防的視点を持ち多職種と連携する機能を学んでいたことが明らかとなった。